職業技能 鍛錬の成果競う

矢巾で県障がい者大会

第23回県障がい者技能競技大会（チャレンジいわてアビリンピック2025）は22日、矢巾町南矢幅の県立産業技術短期大学校矢巾キャンパスで開かれ、出場者が日ごろ培った技術を競い合った。

県内の障害がある高校生から50代までの30人が出場。ビルクリーニングや木工、喫茶サービスなどの9競技に臨み、接客で飲み物を提供したり、制限時間内に床やカーペットの清掃作業に取り組んだ。

木工は、のこぎりやかんなを巧みに使って小箱を組み立てた。佐藤悠斗さん（盛岡峰南高等支援学校2年）は「難しい工程もあったが、順調に作業できた」と顔をほころばせた。

県と独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構岩手支部が主催。障害者の職業能力の向上や雇用促進などを目的に毎年開催しており、成績優秀者は10月に愛知県で開かれる全国大会に出場する。

金賞受賞者は次の通り。

▽表計算　尾野多恵（岩手銀行）▽喫茶サービス　原子内裕翔（盛岡峰南高等支援学校）▽ビルクリーニング　菅原太聖（前沢明峰支援学校）▽オフィスアシスタント　浅沼佳代子（就労継続支援B型事業所・盛岡書房）▽物品運搬　杉沢綜太（同）▽写真撮影　木下淳

真剣な表情で制作に取り組む木工競技の佐藤悠斗さん

▲岩手日報令和7年6月23日付
岩手日報社の許諾を得て転載しています